

火災対策

●火災の発生原因

火災の発生原因で一番多いのは「放火」で、毎年、火災の原因の1割以上を占めており、「放火の疑い」を含めると全体の2割ほどになります。このほかの主な原因は、「コンロ」、「たばこ」、「たき火」などとなっており、人の不注意によるものがほとんどです。

- またひとたび、大地震が起こると、火災の発生率が極めて高くなります。火災による2次災害を食い止めるためには、初期消火が重要です。

火災が発生したら

火災は出火直後の **早く知らせ** ▶ **早く消す** ▶ **早く逃げる** が大切です。優先順位は状況により異なりますが、慌てず冷静な判断を心がけましょう。

Step1 早く知らせる



火災の発生を周囲や消防署に知らせましょう

- 大声で「火事だ!」と叫んで周囲に知らせましょう。
- 声が出ない場合は、やかんなど大きな音の出るものを打ち鳴らしたり、非常ベルを押すなどして周囲に気づいてもらいましょう。
- どんな小さな火事でも必ず119番通報しましょう。

Step2 早く消す



出火直後が勝負! 落ち着いて勇気を持って消火しましょう

- 近くに消火器がない場合、座布団で火を叩いたり、毛布で火を覆ったり、手近なものを活用しましょう。
- 鍋の油が燃えたときに消火器がない場合、ぬらしたバスタオルなどを手前からかぶせて空気を遮断するのも有効です。
- 消火器を使用するときは、消火器の煙で前が見えなくなりますので、必ず逃げ道を背にして行いましょう。屋外では風上にまわって使用します。
- 電気器具が出火したときは、水をかけると感電することがあります。コンセントかブレーカーを切り、粉末消火器で消火しましょう。

Step3 早く逃げる



消火が無理だと思ったら、無理せずに避難をしましょう

- 天井に火がまわったら初期消火をあきらめて避難しましょう。
- 逃げるときは、部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断しましょう。
- エレベーターは火災による停電で止まることがあるので使ってはいけません。
- 火災で危険なのは煙です。火災の死者の多くは、一酸化炭素など有毒ガスを含んだ煙を吸って中毒死したり、動けなくなって逃げ遅れることによるものです。

+ 119番通報の手順 +

1

電話で119番にかけます。
(携帯からでもかけられます)

2

消防署が電話に出て「火事」か「救急」か聞かれますので「火事」と答えます。

3

消防署が場所や燃えているものなどを聞いてきますので、落ち着いて答えましょう。